

第3期国分寺市公民館運営審議会 令和元年度第6回定例会 要点記録

日 時 令和2年2月13日（木） 午後2時00分～午後4時10分

場 所 本多公民館講座室

出席者

■委 員 佐藤委員長・田中副委員長・浅見委員・近藤委員・畑中委員・高塚委員・新委員・戸澤委員・今野委員・岡本委員・大内委員・笹井委員

■職 員 前田公民館課長兼本多公民館長・野中本多公民館事業係長・増本恋ヶ窪公民館長・久保光公民館長・豊泉もとまち公民館長・本望並木公民館長

連絡事項

事務局：第3回と第4回の要点記録を配布した。

委員長：並木ともとまちで開催したもの、何かあったら事務局まで。

報告事項

(1) 教育委員会等報告

課長：資料1に基づき教育委員会の報告

委員長：教育ビジョン，パブリックコメントはどの程度反映しているのか。

課長：意見78件に対し，4件について反映。それ以外についてはすでに趣旨反映していると解凍している。

委員長：私は社会教育の考え方について幾つか提案させていただいたが

課長：いただいた意見に基づいて文章を作成した。

委員：図書館の一部委託検証委員会の報告について，他市の市民に「国分寺市の図書館は委託が進んでいるのか」と聞かれたのだが，どうなっていくのか

課長：現在すでに本多図書館以外の4館のカウンター業務は委託済み。それについて，仕様書に基づき業務が行われているかの検証を行った。

委員：検証は終わったのか。

課長：終了した。概ね適正であるという評価だった。

委員：「この業務は委託されていない」とイベントの参加を断られたことがあると聞いた。

協議事項

(1) 本多公民館について

委員長：それでは本多公民館について

本多公民館事業係長：資料に基づき本多公民館の説明と施設見学

委員長：質問ありますか

委員：資料の年間利用率はいつの時点か

係長：平成30年度。

委員：予約システムになる前か

係長：完全に予約システムに移行したのが平成30年6月なので、最初の2ヶ月は仮運用の期間。

委員：いわゆる公民館主事とか社会教育指導員と言われる職員は何人いるのか

係長：国分寺市は特に公民館主事等の発令をしていないのでいない。代わりに社会教育主事の任用資格を持ったいわゆる有資格職員が再任用に1人いる。

委員：他の館はどうなのか。

事務局：他の館は館長以外の職員はすべて嘱託職員であり、採用条件に社会教育主事の任用資格を付しているのので、各館2人から3人配置している。館長の有資格者が1人いるので、その館は全員有資格者となっている。

委員長：公民館の予算は本多が一番多いのか

係長：基本的に成人講座の報償費などは各館同額。しかし異世代交流事業やくぬぎ教室、学習支援事業など、成人講座とは別立てで予算計上しているものがある館はその分多い。本多の場合は別立てのものが多いため必然的に予算額は多くなる。

委員長：事業費はそうなっている。施設費や人件費はどうか。

係長：施設費は5館総額を一括で計上している。

委員長：5つの公民館を見てきたが、建物は一番古いのは本多公民館か。

事務局：建物が一番古いのは恋ヶ窪公民館。昭和48年。本多公民館は昭和58年に全面的な建て替えをしている。

委員長：他の公民館も建物の改築計画はないのか。

課長：改築計画はないが個別の修繕計画はある。

委員長：先ほど見たがトイレは綺麗になっていた。

課長：トイレについては並木以外改修を完了している。

委員長：前回までに話題が出たが、恋ヶ窪についてはもしかしたら計画ができるというような話があるのか。

課長：市役所の移転場所が決まり、跡地について公共施設の再配置を検討している。

委員長：そこで恋ヶ窪公民館の新設が議論されているのか。

課長：市役所の跡地に何を作るのかを議論を始めたところだ。

委員：2月1日にそれについての市民説明会があり参加してきたが、ちょっと市民感覚と違う感じがした。跡地に市民のために公共施設を作るのかと思っていたが違うようだ。跡地利用の案として①商業施設②医療福祉③学校④高齢者施設の4つの案があるようだ。公民館

や図書館という建物を作るということではなく、もっと大きな建物をつくり、「賑わいの創出」になるような施設を作るという説明があった。あの土地を、市としていかにうまく活用するかという話だった。市民からはプールや中央図書館などの要望が出ていた。公民館という要望はなかった。移転を機に、委託など、中身が公民館じゃないものになってしまうのではないかと危惧している。若い市民の方が結構いたが、自分の住む地域にこれだけ関心がある人がいるので、こういう人たちを公民館へ引き込めれば何かできるのではないかと感じた。

委員長：その説明会は市が開いたのか

委員：「恋ヶ窪エリアのまちづくりに関する第三回地域懇談会」として市が開催したもの。

委員長：エレベーターが必要だと認められても、その集合施設に統合される案だと恋ヶ窪公民館図書館がどういう位置付けになるのかが気になる。浦和には駅前にやはり商業施設と一体化した公共施設があるが、その中の図書館は全国でも有数の利用率になっている。また有料コミュニティ施設の部分もいつ行っても賑わっている。確かにそういった複合かは賑わいを創出できるが、では中央図書館のようなものを作るという動きになった時、併設する公民館がどうなるか。注目していかないといけない議論になりそうだ。

館長：主催したまちづくり計画担当に資料が欲しいことと、この会が東京都公民館研究大会と同時刻だったため、改めて公民館で別日に説明を行ってもらえないか問い合わせをした。説明会について今年度はもう難しいが、来年度であれば地域の皆さんと話をすることはできるとのこと。公民館としても利用者懇談会などと一緒に開催するなどして地域住民と考えていきたい。

委員長：方針が決まると意見が言えなくなってしまうので、ぜひ「公民館を考える会」のような形で考えてもらいたい。

委員：恋ヶ窪駅はローカル駅ですから、下手な商業施設を作ることが有効なのか疑問を持っている。駅前ではあるが。

副委員長：新しい道路を有効に使おうと考えているのだろう。現有地はその道路沿いになるので。

委員：道路と鉄道に挟まれて確かに流れはできる。

委員長：地元商店街の活性化を望む声もあるだろう。商業要求と文化要求は概ねずれることが多い。

副委員長：恋ヶ窪は学校敷地に立っているから、改築は難しいのだろう。

委員：説明ではそれほど大きなものを立てるような感じではなく、公共施設も余った場所に建てるような感じだった。

委員長：例えば大手のスーパーが入ると地元の商店が衰退する。地元商店を吸収し発展できるのか、潰していくのか。そういったまちづくりの考え方もはっきりしない。

委員：もうすでに潰れている。

委員長：賑わいのあるまちづくりというのは公運審としては大きすぎるテーマだが、地元の

人たちと公民館利用者が一緒になって考えないと難しい問題になってしまいそうだ。今後
も注意深く情報を集め報告をお願いしたい。

委員：国分寺駅ですら賑わいの創出をうたっているがすでに店が撤退を始めている。恋ヶ
窪駅ではさらに難しいのではないかと思う。幹線道路沿いにあった商業店も撤退した。そう
いう時代であるならば思いきって文化に舵を取って欲しいと思う。

委員：大きなプールと大きなホール。

委員：その方が市民にプラスになると思う。

委員：学校という案もあるが疑問である。

委員長：市立学校を作るのか。

委員：専門学校でも誘致するのだろうか。

委員：医療施設の案もあるが、旧第4小学校の跡地にある。

委員長：よそから見るとなぜ国分寺市に賑わいの創出が必要なのか。人口や子どもが減って
いるわけでもない。国全体の人口減少の影響はあるかもしれないが、ベッドタウンとして市
民生活の充実を図る方が必要なのではないか。

委員：地域の住民からはいかに静かにのんびり暮らすためにここを買ったのにといい意見
も出ていた。

委員長：誰がどういう形でこのまちづくりをまとめていくのか、まだ全く見えない。「考え
る会」のようなものがないと、まだものが言えない感じだ。次年度に向け注目していく
必要がある。

委員：これはどういう方が作られた案なのか。

委員：コンサルのようだ。

委員：国分寺市は案が出てきたと思ったら直ぐ引っ込めたり、突然決まったものを出され
たり。市民に不信が広がっていると感じている。

委員長：自治会や商店街はどうなっているのか。

委員：ちょっと前に商店街の人に聞いたときは、なにも聞いていないと言っていた。

委員長：市役所の移転の時期は決まっているのか

課長：令和6年11月に新庁舎完成の披露をしたいとの意向がある。

委員長：来年度が重要な感じだ。

委員：館長も言ったが利用者と地域が一体になって考えていけるといいと思う。

委員長：埼玉県のある市で文化センターとコミュニティセンターが新設され、公民館はそ
こに吸収されるという話があり、100人ぐらいの市民が公民館を残すように1年ぐらい運
動をしていたが、結局通らなかったという事例がある。議会に請願しても議員が公民館の役
割をわかっていないので難しい。色々な要素が絡んだ難しい問題であると思うし、しっか
り要望出さなければいけないと思う。せっかくエレベーターの話も出たのだから。

委員：市からは公民館図書館の老朽化という話が出たが、必ず市庁舎跡に建てるという話は
なかった。

委員長：住民の皆さんとしっかり議論していく必要がある。

委員：行政の方は「公民館は集会施設にすぎない」という見方が強い。そうじゃないんだということをしっかり言っていく必要がある。今聞いた話だと企業が乗ってくるかも疑問。すぐというわけではないなら公民館は集会施設だけじゃないことをしっかり伝えていく必要がある。

委員長：こういう施設を作るとき、よくスポーツレジャー施設などを入れがちなのだが、公民館のスポーツ設備などが充実してれば何も月1万円も払ってそんな施設に行く必要はない。安易に余剰利益を求めるものではない、堅実な公共施設を立てて欲しいところだ。

委員：具体化したところで反対などをするのではなく、逆提案ができるよう組織化して意見をまとめておくことも大事だと思う。

委員長：住民が自分たちが必要としているのはなんなのかということをはっきり示していないといけない。

（2）事業アンケートについて

課長：事業ごとに行うアンケートの項目についてご意見を伺いたい。答申で未利用者の発掘ということがテーマになっていたが、その要素などもアンケートに入れていきたい。

委員長：前回、今期の公運審のテーマとして公民館事業の評価方法ということが出されていて、なかなか量的なデータでは計れない公民館事業についてみなさんにご意見を伺ったが、前期答申で未利用者はどう働きかけるかということを受けて公民館で新しい取り組みが始まっているが、それをどう評価すれば良いのかということも含めて議論をしていきたい。先日の都公連の大会で私が出た課題別集会で講座が終わった後のグループの発展を議論する回だったが、利用層が固定化していて、定年退職したからといって必ずしも参加につながらないという話があり、国分寺市公運審が出した答申のように新たな利用者層をどうしたら開拓できるかという問題意識を持って、実際にやってみただどういう結果が出たかという参考になるようになるとういと思う。さまざま思いつく限りで意見を出して行ってほしい。それを館長たちに取り捨してもらって考えていただければいいと思う。

委員：いくつかある。評価のところにいわれる5件法の設問があるが、私は「普通」をやめて4件法がいいと思う。肯定と否定をはっきり分けた方がわかる。

委員長：NHKの世論調査などにも「どちらでもない」という解答欄があつて分からなくなってしまう。確かに普通とは何かよく分からない。

委員：曖昧になってしまう。あと、設問がマネジメントについて聞く質問になっている。コンテンツについて、中身について聞く設問、例えば「視野が広がったか」など「仲間ができたか」とかを聞く設問も必要なのではないか。その方があとで役立つのではないか。検討してほしい。

委員長：みなさんも自分が講座を受けたつもりでこんな質問があつていいのではないかと

いう発言をお願いしたい。

委員：自分にどういうところが役に立ったとか、どう活かしていきたいかを聞かれてもいいかと思う。確かにマネジメントが強い感がある。

委員：「次回は誰かを連れて来たいか」ということも聞いてもいいのではないか。広がる可能性が見えてくるのではないか。

委員長：講座の継続・発展についても聞いてもいいかもしれない。

委員：話の最初はアンケートを作って未利用者を開拓するためにはどうすればいいかという話だったと思う。であれば「公民館に初めて来たか」ということを聞く必要がある。既に行っているアンケートの目的は次の講座をどう作るのかということであるならば、既に活用していると思うが、未利用者ということであれば決定的に重要なことを聞かなければならないのではないか。「公民館位初めて来た」「あの講座が面白かったから他の講座に興味を持ち参加してみようと思った」などという意見を聞くことが必要だ。

委員：私も職業柄アンケートはよく行うが、自分が参加するときは面倒なのでない方がいいと感じてしまう。ただ取る側は目的があって取っている訳だし、何を聞きたいかによって項目はぜんぜん変わってくる。未利用者を知りたければ回数を聞くのが当然だし、年代を聞いているのでこの年代の人はどういったことに興味があるのかということもわかると思う。何を聞きたいのかをしっかりと明らかにする必要があると思う。また、アンケートは来てくれている人の意見であって、発信の部分が弱いと思っている。公民館がやっていることをどう発信していくか、公民館が貸館だけではないことをどう伝えるか。数多く行っている公民館事業を市民の方にどう伝えていくのか。どう見せていくのか。アンケートを含めてどうデータなどを活用して発信していくか、公民館の存在意義を伝えていくためにはアンケートと発信方法を連動して考えていく必要があるのではないか

委員：私も講座によく参加してアンケートもいっぱい書くが、そのリターンがない。どのように返して貰えば次に友人を誘えるかなということ考えた。

委員：細かいことだが、LGBTの観点からも性別を聞く欄に「その他」と入れた方がいい。

委員長：国籍などは聞かないのか。そういう方が来たってことでもポジティブな評価に繋がっていくのではないか。

委員：国籍の情報は聞きにくそうだ。

委員長：仕事の有無はどうか。

課長：「仕事していますか」と聞く。

委員長：どういう聞き方がいいかわからないが、時間がある人が来ているのかそうでないのかを判断することができるのではないか。

委員：もし聞くとしたら職業、会社員とか主婦とか。

委員：無職とか。

委員：その情報が必要であればそれを聞けばいいが、私のところでは必要な情報でないと聞かない傾向がある。ただ公民館ではそれが必要であるとして年齢などを聞いているのだと

思う。

委員：アンケートの回収率はどのぐらいか。

課長：講座によって違うが、だいたい8割程度だと思う。

委員：私も講座に参加していつも書いているが、普通というのとはよく分からない。先ほどの話の通り良いか悪いかをはっきりさせた方がいい。「理解できましたか」と聞かれても理解できたかどうかはなかなか分からない。もっとはっきり「面白かったか」と聞いてもいいのではないか。「面白かったか」「自分の暮らしに役に立つか」「講座の続き、掘り下げた講座を聞きたいか」「仲間作りに役に立ったか」の4つは聞いて欲しいと思う。また公民館の施設や職員への要望などを聞くのも必要だと思う。公民館の住環境、公民館か居心地のいい場所かどうかをきいても必要。いつも回答していてなんでこんなことを答えているんだろうと考えることがある。

委員長：未利用者だけではなく、一般の参加者へのアンケートも改めて行った方がいいようだ。

課長：アンケートは事業ごとに聞いており振り返りの際に理解度を確認している。自由記述欄があるのでその意見を生かさせていただいているというのが現状。

委員長：アンケートを書く側からすると、なんのために公民館に来ているのかという視点が足りないという意見が出ている。

課長：今回していただいた議論は、未利用者が講座を行っているがどのぐらい来ているか拾い出せていないということから、アンケートを工夫した方がいいのではないかとということからお願いしたが、様々な意見を頂いたので改めて検討していきたい。

委員：五館さまざまな取り組みをして新しい人が来ているのではないかと、すごく職員が頑張っているということを自己評価というか、いい報告を是非聞きたい。

委員長：次回以降答申を議論するにあたりさまざまな視点が必要で、その議論のために各館を見学して、やっていることを紹介されてきたが、その取り組みによってどうなっていたか、どういう人に繋がったかなどを全館から出してもらうなど各館長から報告いただきたい。

委員：アンケートは一部報告書に反映されているという話だったが、であれば現在のアンケートは報告書作成のために公民館側が知りたい項目が載っているということ。そうすると、先ほどまでの市民が聞いて欲しいことと、公民館が聞かなければならないことは分けて考える必要がある。先ほどの議論をどう反映するか、設問を付け足すのか、報告書のデータを変えるのか。それを公民館側がよく考える必要があるだろう。

委員長：答申に基づいた未利用者に対する働きかけの効果を見るということで考えていただければいいかと思う。全体を改めるかどうかは別の機会でもいいのではないかと。ただ普通というのは改めた方がいい。

委員：余談だが、昨年岐阜県多治見市の指定管理者が導入されている公民館を見に行つた。

そこで感じたのが必ずスタッフが挨拶をしてくれた。正直言って日本中で挨拶のできない公民館スタッフがたくさんいる。初めて利用する市民にとってそれだけでもハードルが下がって公民館に入りやすくなる。利用者を広げていくにはそういったちょっとしたことも必要なのではないか。

委員：お店なんかと一緒にだ。

副委員長：国分寺市の場合はこちらから声をかけると挨拶してくれる。事務やっているとずっと下を向いていて気づかない。お店のように難しいが、できるだけ明るくすることは必要だと思う。

委員長：意見は反映するのか。

課長：未利用者については、反映しないと評価できない。

委員長：公民館を知っていたかというものは是非聞いて欲しい。貸館ではない公民館を理解しているのかを、どういう聞き方をすればいいのか。

委員：未利用者がこの講座にどのような興味を持ったか、次も来たいかというのはわかるように聞いて欲しい。

委員：全部アンケートで聞かなければならないのか。講座受付の際に公民館を知っていたかとか、講座に何回参加しているかなど聞くことができないのか。電話では難しいかもしれないが、メールやFAX、SNSなどを取り入れた申し込み方法を取り入れていけばできるのではないか。

委員：聞くことのボリュームが多くなっている。

委員長：利用度はぜひ入れて欲しい。

事務局：現行アンケートについて補足説明。課として設問の1, 2, 3は必ず入れる、その他の設問については担当が自由に変更することができることになっています。現在やっている高齢者関連講座などに今日いただいたご意見を反映した設問を入れることは可能だと思います。また今日議論いただいた趣旨は、来年度からアンケートを含め報告書を新しいものに更新する検討を行うにあたり、まずは委員の皆様のご意見を伺い、それを元に新しいものを作っていこうと思い、提案させていただいた。

委員長：前期の答申に基づき、来年度前半で行う講座に今日の議論を反映したアンケートを行ってフィードバックをしていただいて、それを受け答申へつなげていくことができる。公民館の課題を探ることができると思う。

(3) その他

委員長：次回は3月30日、笹井委員に管内研修をお願いしている。午後1時45分から、公民館の将来像、これからの公民館に問われるものをお話ししていただきたい。

課長：テーマは「日本の公民館に求められている、新しい公民館の課題と可能性」ということでよろしく願いいたします。

委員長：新年度4月は23日木曜日午後2時から4時、本多公民館で行う。

事務局：報告です。前期答申に基づき、本年度国分寺市PTA連合会と共催で教育講座が終わりました。

委員：懸念されたきょうどう学習委員の主体性についても、担当職員が驚くほど自ら学んだり、講師の提案もしたりと学びあいながら講師交渉などを公民館職員がやってくれたと感謝していました。専門委員会の予算もないので、講師を呼んで学習する機会の提供はありがたかったです。

事務局：次回、記録集を配布させていただきたいと思います。

委員：参加人数は

事務局：80人ぐらいです。PTA以外の方も多かったのではないかと思います。

委員長：以上で閉会する。